

公の施設目標管理シート（直営）

問合せ先	025-378-0480
------	--------------

年度	令和2年度
施設名	新潟市文化財センター 他1施設
所管部・課	文化スポーツ部歴史文化課
施設の設置目的	埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、新潟市文化財センターを設置する。

当初予算(千円)		当初人員(人)		作成日	R2.7.3
歳入	15,747	正職員	12	修正日	
歳出	63,264	会計年度任用職員	35	評価日	R3.6.30

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価	
			項目	H29実績	H30実績	R1実績	R2目標					R2結果
1	市民	埋蔵文化財の保存・活用	・発掘調査報告書(文化財センター年報を含む)の刊行数(冊)	5	4	5	3	3	本発掘調査・試掘確認調査の報告書を刊行して発掘調査を着実に完了します。報告書刊行資料について台帳を作成して収蔵保管し、展示・公開等の活用に努めます。	・本発掘調査・整理作業の実施 ・発掘調査報告書刊行 ・文化財センター年報の刊行 ・上記考古資料の台帳作成及び収蔵保管	発掘調査報告書2冊と文化財センター年報を刊行し、目標を達成しました。	B:達成
2	市民	文化財センター入館者、各種イベント参加者数の増	・文化財センター入館者(人) ・文化財センター外講座等(人) ・遺跡発掘調査現地説明会(人) ・遺跡発掘調査速報会(人) ・各種出前講座(人)	14,350	17,221	12,136	10,550	8,318	文化財センターで多様なテーマの企画展や講演会、現地説明会等を開催するほか、学校や地域に向いて講座等を開催して、文化財に対し関心・理解を深めていただけるよう努めます。	・企画展および関連講演会の開催 ・文化財センター外で行う各種講座等 ・遺跡発掘調査現地説明会 ・遺跡発掘調査速報会 ・各種出前講座 ・館外展示	新型コロナウイルスの影響を大きく受け、入館者数が例年に比べ半減し目標未達成となりました。しかし、10月の発掘調査現地説明会は、目標の3倍以上の来場者がありました。また、来館できない学校等団体から依頼され出前講座が好調でした。発掘調査速報会も、オンライン配信をすることにより、県外からも来県せずに参加いただくことができました。	C:未達成
3	市民	国史跡古津八幡山遺跡への理解・認知度の向上	・企画展(回) ・企画展関連講演会・講座(回) ・企画展展示解説(回) ・確認調査現地説明会(回) ・各種募集イベント(回) ・その他イベント(回)	48	38	26	23	20	国史跡古津八幡山遺跡の認知度を高めるために各種イベントを開催するとともに、企画展や講演会等を開催し、史跡の理解を深めることに努めます。	各種イベントを行い古津八幡山遺跡を広く知っていただくとともに、関連する企画展や講演会等を行い史跡の理解を深めるための調査研究を行います。	新型コロナウイルスの影響で大型イベントが中止になり、開催回数は目標を下回りました。しかし、募集型イベントは一部開催時期をずらし、講演会についても、入場定員を減らし事前申し込み制にすることで密を避け、全て開催することができました。	C:未達成

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価 (評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<p>文化財センターは、古津八幡山遺跡・弥生の丘展示館と共に、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、文化財に対して市民の関心・理解を深めてもらえるよう、広く市民に文化財に関する情報を発信していきます。</p> <p>埋蔵文化財については、発掘調査を行い、発掘調査報告書を刊行します。さらに考古資料の再整理・台帳整備を行い、資料の適切な保存管理に努めます。また、有形民俗文化財についても台帳整備を進め、確かな保存を行います。</p> <p>また、埋蔵文化財等に関する調査研究を行い、研究成果をご覧いただけるよう「砂丘と遺跡ー阿賀北の砂丘上の遺跡ー」・「小学生向け展示 にいがたのれきし」・「成熟した縄文文化ー縄文晩期の角田山麓 御井戸遺跡からー」と題した企画展を開催します。同時に、市民ボランティアとの協力・連携を図り、展示解説など市民からの要望に対応できる施設運営を目指すとともに、学校や公民館への出前講座や市政さわやかトーク宅配便の利用促進に取り組みます。</p> <p>弥生の丘展示館では国史跡古津八幡山遺跡の理解を深めるための調査研究を行うとともに、3本の企画展をはじめ各種イベントを開催し、国史跡古津八幡山遺跡の認知度を高めるように努めます。</p> <p>また、北東域の史跡指定地外の確認調査を実施し、遺跡の広がりや内容把握を行い、史跡を適切に保存するとともに調査成果を広く発信します。</p>	<p>埋蔵文化財の発掘調査を行い、発掘調査報告書を目標どおり刊行しました。発掘調査については、重要な発見が相次ぎ、その成果を現地説明会、発掘調査速報会、速報展示、ホームページの発掘調査ニュースなどを通じて市内外の方に情報発信することができました。コロナ禍の中で活用事業は、密を避けるため募集定員を減らしたり、緊急事態宣言下で開催できなかったイベントを秋以降に延期したりと制限のあるものでしたが、ほぼ予定通り開催できました。中でも遺跡発掘調査速報会のオンライン配信や東京在住の講師のZOOMでの登壇は、参加者からも理解が得られ、今後の活用事業の新たな形を見出せました。</p> <p>史跡古津八幡山遺跡では、指定地外での確認調査により遺跡の内容評価につながる発見がありました。弥生の丘展示館での活用事業も月1回のペースで開催できたほか、土日に行っている体験コーナーにおいてもコロナ対策として時間制・定員制を導入し、安全に体験を楽しんでいただけました。</p>